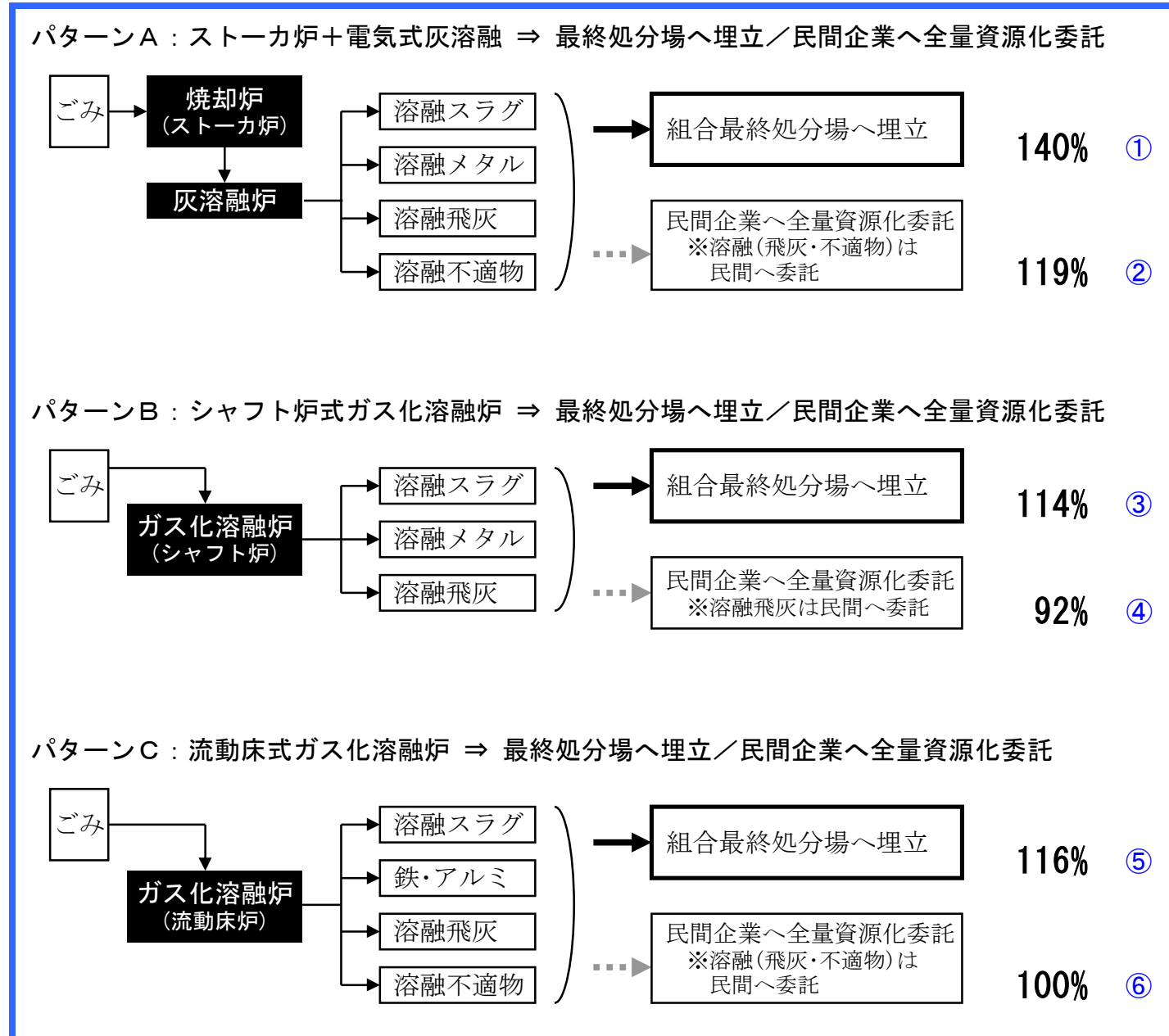
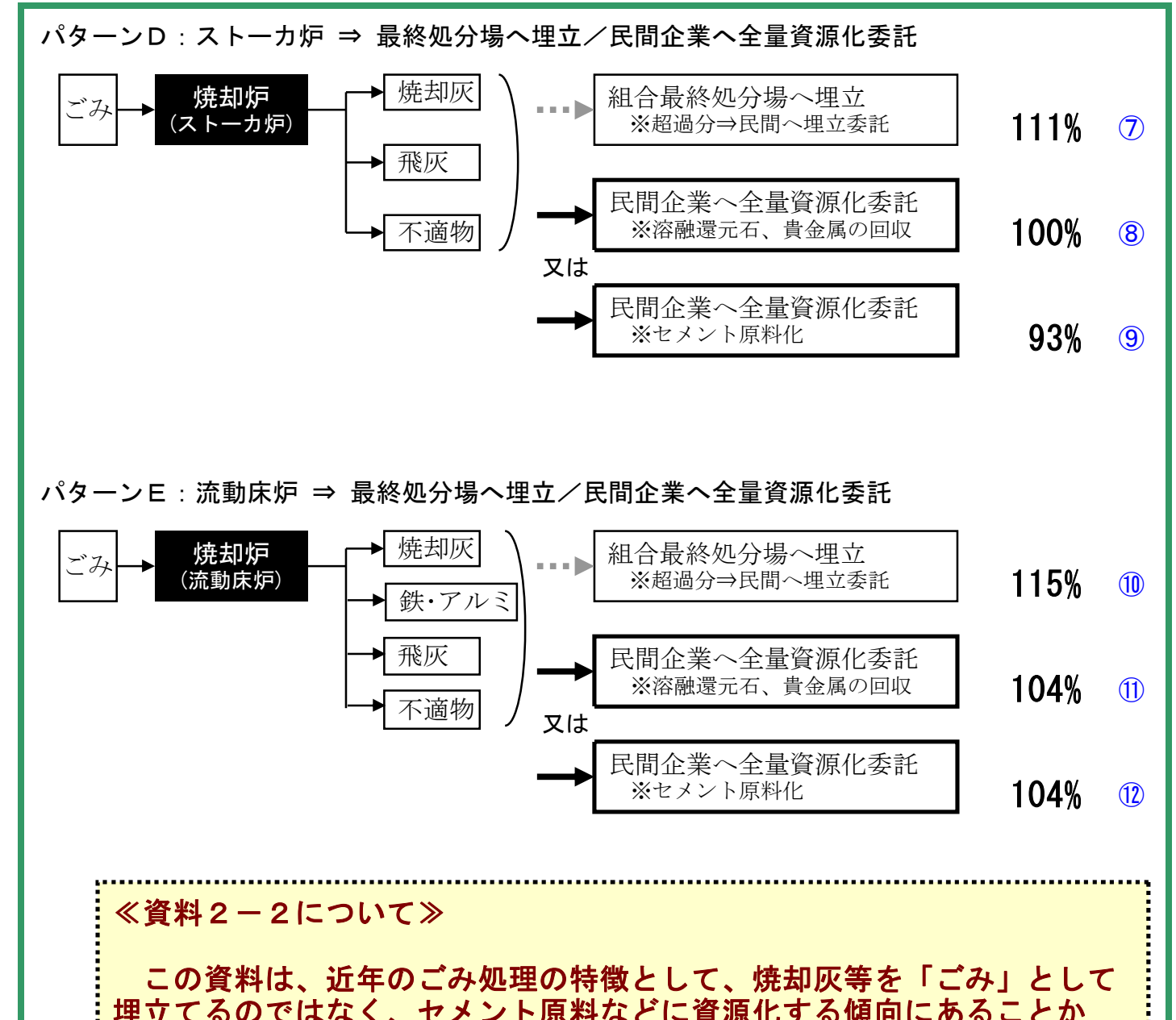


# ごみ処理システム別 ライフサイクルコスト

## 【溶融あり】



## 【溶融なし】



《資料2-2について》

この資料は、近年のごみ処理の特徴として、焼却灰等を「ごみ」として埋立てるのではなく、セメント原料などに資源化する傾向にあることから、焼却灰や溶融スラグ等の処理又は処分方法まで含めた「ごみ処理システム全体」を見て検討するため作成したものです。

ライフサイクルコストについては、ごみ中間処理施設と最終処分場では、運用期間が異なるため、ごみ処理システム全体として比較検討を行うため、施設廃止に係るコストは除き、組合が建設を計画している最終処分場の埋立期間である15年間で積算しています。

また、アンケート調査に協力していただいたメーカーに不利益を与えないよう考慮し、金額を表記するのではなく、資料の比較表「近年の傾向：溶融なし+全量資源化」の平均額を100%とし、それぞれのパターンと比較しています。

### 【比較表】

(単位：億円)

中間処理施設の焼却方式+残渣の処理方法	平均額
現在の計画：溶融あり+最終処分場へ埋立 ①・③・⑤	123%
近年の傾向：溶融なし+全量資源化 ⑧・⑨・⑪・⑫	100%

※「近年の傾向：溶融なし+全量資源化」の平均額を100%として比較